

水環境保全のための政策形成過程や多主体連携に関する研究

関連するSDGsの国際目標



環境科学部 環境社会システム学科 准教授 平山 奈央子

研究分野 : 流域ガバナンス, 政策過程分析, 住民参加

研究室HP : <http://hirayama.depp-usp.com>

次のような問題意識・関心のもとで研究を進めています。

1. どのような意見対立や交渉・調整を経て政策が形成されるのか
2. 住民の価値観/考えを踏まえた環境保全計画の策定や見直しの在り方
3. 環境保全のための政策や市民活動で多様な主体が効率よく連携するための手法

■開発から保全へ至る水環境政策の変遷を紐解く研究

例えば琵琶湖保全政策の政策形成過程について、昭和30年以降、琵琶湖流域の開発・保全政策はめまぐるしく変化してきました。それら変遷や政策決定に影響した要因を明らかにすることを目指しています。滋賀県議会会議録や新聞記事から特に重要なトピックを抽出し、それぞれのトピックについて文献や関係者へヒアリングからストーリーを紐解いていきます。

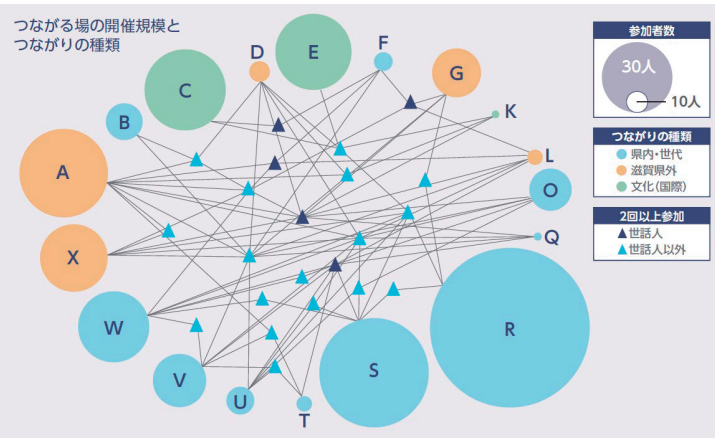
■環境保全政策・市民活動における連携・協働の促進のための研究

＜連携要因の解明＞

近年、公共課題への取組みにおいて連携や協働が重視されていますが、それらには意思決定の遅さや事務的な負担、調整のわずらわしさなどの課題もあります。効率のかつ効果的な連携をめざし、その手法や工夫などについて明らかにしたいと考えています。

＜連携のコーディネート手法＞

連携は自然発生的に始まることもありますし、コーディネータが必要に応じて連携を促す場合もあります。属人的になりがちなコーディネータの活動ですが、連携のために重要な機能や役割について明らかにしたいと考えています。



マザーレイクゴールズに関する繋がり可視化

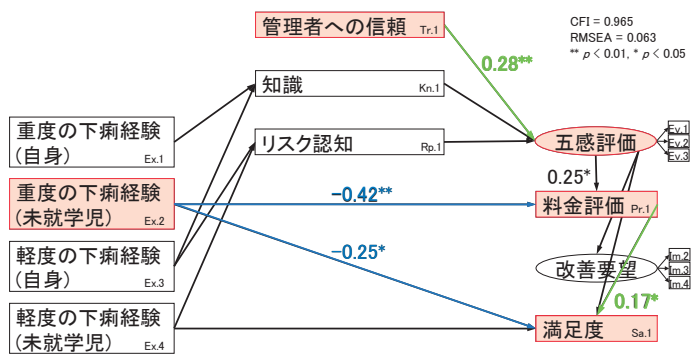
■東南アジアの水環境・水管理に関する研究

＜スリランカ・キャンディ湖：価値観調査＞

スリランカの中心部に位置するKandy Lake利用者を対象にアンケート調査を行い、同湖は宗教的、文化的、観光資源としての価値が重視されていることを明らかにしました。

＜ベトナム・ハノイ：生活用水に対する意識調査＞

ハノイ南部の農村地域において、生活用水の利用や農業の実態、水に対する意識を把握しました。



ハノイの水道水の満足度に影響を与える要因構造